¡Hola, amigos!

第０６７号

（ＲとＮの Cádiz からの手紙）

皆さんこんにちは。これはＨＰというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は、なるべく毎週日本時間の金曜朝０５：００から０７：００時に実施する予定です。臨時休刊の場合は前もってお知らせするようにしたいと思います。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のものは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。　　２００５年０７月０１日　カァディスにてＲ ｙ Ｎ

☆今週号のトップへジャンプ

現在有効なバック・ナンバーは０６６号（６月２５日）のみです。今週号のトップにあるボタンからどうぞ。

＊今週号＊ No.067（2005年・第27週） ０７月０１日更新

「二ヶ月ぶりの我が家」の巻

アハハ、またやってしまいました。ＨＰ再開は２５日金曜だって？　前にも一度同じことをやってますね。ご丁寧に、再開お知らせメールにも、表紙の日付にも、本文の更新日付にも、同じ間違いをしちゃいました。そりゃそーですね、本人はそう思い込んじゃっているんですから。素直なかたは、へぇースペインじゃ曜日が一日ずれるんダと思ったかもしれない。ンなこたーないか。また、ナニ言ってんだか、とおおらかにお許しくださったに違いない。

しかし、長年世界中の時差を気にしつつ仕事をしてきた人間としては、あってはならぬ間違いです。加えて不正確なことの嫌いな者としても自分が許せない。

こんな毒にも薬にもならないＨＰですからアハハですみますが、業務上でこんな間違いをしたらゴメンでは済みませんね。あえて自己分析すると日本時間金曜０５：００はスペインの夏時間では木曜２２：００、常に「一日のズレ」ということが頭のどこかに引っかかっていたに違いない。こりゃー言い訳にしかなんないか、間違ったことは厳然たる事実です。

何かの本で、航空機事故が連続して起きることが多いのは、世界のどこかで事故が起きたと聞くと、日ごろなんでもなく簡単にできていることでも、自分も間違いをしちゃいけないという過度の緊張感から、普段なら考えられぬミスを犯してしまうからではないか？というような意味のことを読んだ記憶があります。そのときは同じく運航に携わるものとして大いに共感を覚えたものです。

幸い船の場合は秒単位での判断ミスが決定的な事故に結びつくというような瞬時の動きではありませんから、緊張感もソコソコで済みはしましたけどね。

アハハ、随分大げさな話になりましたね、こうやって自分のミスを小さく見せようというのはアル種の世界の常套手段です。笑ってごまかすのも・・・。

とにかくごめんなさい。表紙でも言っているように、これからも更新は毎週日本の金曜朝です。この際、日付は忘れてください！！

５月２５日夜、二日間のマドリー(ド)の休日も終えて、またカァディスに帰ってきました。マドリー(ド)発１６：３５、カァディス着２１：３１。所要時間約５時間の急行 Altaria の旅です。

もう一つの、鉄道での移動手段はマドリー(ド)～セビージャ間の特急ＡＶＥの利用です。ＡＶＥとは日本の新幹線に相当する高速鉄道でセビージャまでの所要時間は２時間３０分。そしてセビージャ～カァディス間はレヒオナール(regional＝地方鉄道＝中距離線)で約１時間４５分。合計乗車時間は４時間１５分です。

しかし、ＡＶＥは日中の大部分は１時間に１本毎正時発でセビージャ着毎時３０分。一方セビージャ発のカァディス行きの発時間はまちまちなので、ほとんどの場合約３０分、最大１時間の待ち時間が生じます。そして乗換えは荷物を持ってホームを移動しなくてはならない、ＡＶＥは安くない。以上、デメリットは三点。

一方、前者が１日に２本しかないのに、後者はほとんど毎時間ごとの選択肢がある。私達は待ち時間は気にならないけれど、ヤッパリ「安くて」楽な前者を選びました。

いつの日か、私達を訪ねてくださる予定のある方は覚えておいてください。ＡＶＥに乗るなら、マドリー(ド)発１８：００がその日のうちにカァディスに行き着ける最終便です。これならセビージャ発カァディス行き最終便２１：３５にセーフです。

その後のＡＶＥマドリー(ド)発１９：００はセビージャ着２１：３０ですから乗り継ぎの余裕はわずか５分。これではお勧めできません。１分以上遅れたら「遅延」とされる、なんてことはない国ですからね。

急行は近郊線の最寄り駅エスタディオにはとまらないので、カァディスからまた近郊線で３駅戻ります。それぐらいならもっと手前で乗り換えればいいのにと思うでしょうが、カァディス駅の方がプラットホーム間の移動が同一平面で楽なのです。終着駅

だから線路の終点の先では全部のホームがフォークのようにつながっているんです。日本でもドン詰まりの駅は大抵そうなってますね。引き返すほうが時間はかかるのは当たり前ですが私達はあまり時間の長短は気にならないのです。

とにかく、こうしてピソの前まで帰ってきたときはかれこれ２２時半ぐらいだったでしょうか。エントランスの前で１瞬、場所を間違えたかなと思ってしまいました。だって入り口はこんな風になっていたのです。この写真は翌日降りていって撮ったものですが、こんな具合です。

自分の家の入り口が知らない間にこんな風になっていたらビックリしますよね。遊歩道の照明はあるものの、久し振りに帰ってきた夜、薄暗がりで始めてこの状態を見たわけですからね。

私達がちょっと途方に暮れていると、丁度そこへ私達を見知っているセニョーラが帰って来ました。そして私達の旅支度を見ると、ああ、旅行してたのね、じゃ、これは持ってないでしょ、と鍵束を見せるんです。

このセニョーラとは二・三度、ほんの二言三言挨拶しただけですが、私達が日本人と

いうことは知ってくれています。でも、薄暗がりのなかでは、私達にはなかなかほかの人と区別はつきにくい。向こうから声を掛けてくれなかったら判らなかったでしょう。私達はここでは唯一のハポネスですから向こうはすぐ判ってくれるわけ。

私達は２ヶ月間日本に居たんですと言うと、ああヤッパリね、ほらここから入ればいいのよ、とガレージへ入る通用門の鍵を開けてくれました。

そして更に普段私達が行ったことのないガレージ横のエレベーター・ホールの鍵も開けてくれたのです。これらの鍵は私達が持っている門の鍵やエントランス・ドアーの鍵とは違うものです。

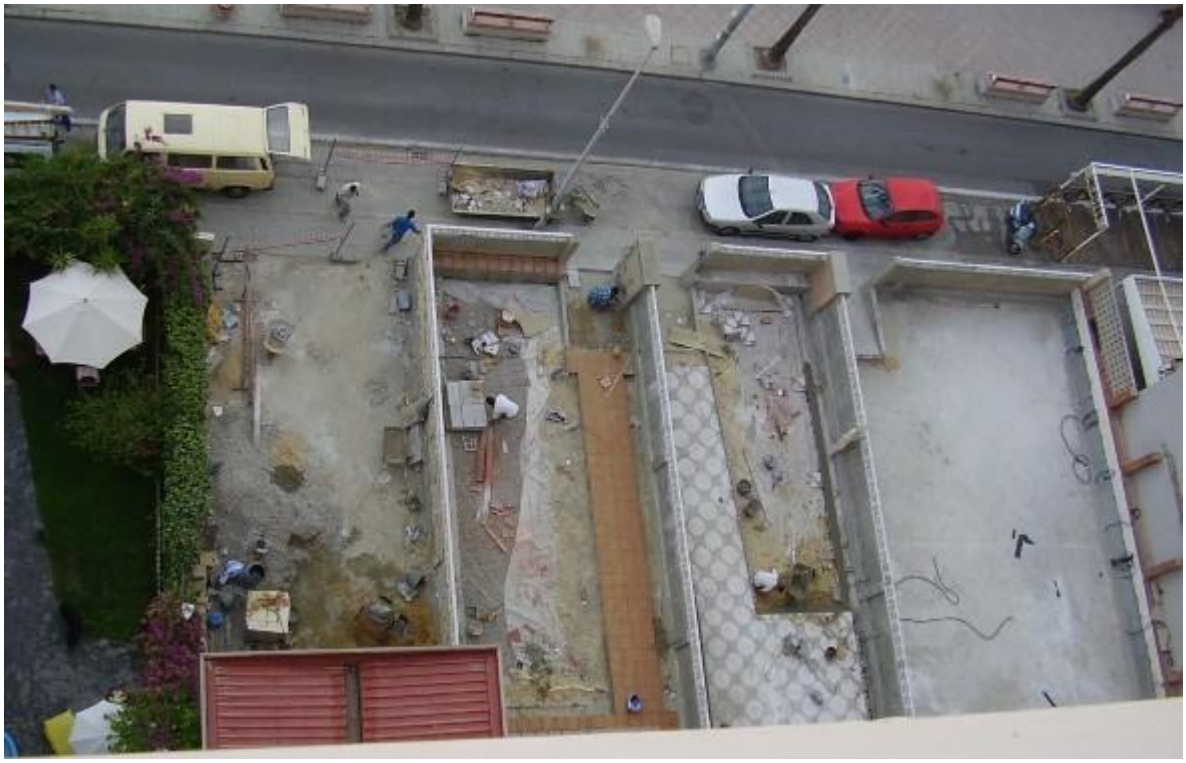
明日、アンドレス(門番の名前)に言ってこの鍵を貰いなさいネ、ブェナス・ノーチェス。　ムーチャス・グラシアス・セニョーラ、ブェナス・ノーチェス。

いやぁー、助かった、折りよく彼女が帰って来てくれなかったら・・・。

まあ、そんなに夜更けというわけでもないから、いずれは誰かが帰ってくるにしてもこれまでに話したこともない人だったら、果たして向こうから声を掛けてくれたかどうか。ここの住民の大部分はヘンナ日本人が住み着いているということは先刻ご承知でしょうが、この鍵を持っている人が必ずしもここの定住者とは限りません。

まさか朝までベンチで、なんてことにはならなかっただろうけど、良かった、ヨカッタ。もう一度、ムーチャス・グラシアス・セニョーラ。

何はともあれ、帰って来ました２ヶ月ぶり。部屋に入って入り口の天井灯のスィッチを押しても、アレッつかない。そうだった電源を切っておいたんだっけ。何もかも手探り。やっと電源も復活、部屋の中を見渡すと２ヶ月前出発したときのままらしい。ヤレヤレ。全ての窓は二重になっているものの玄関ドアはシングル。扉の下辺にはラバーが張ってはありますがエアータイトとは言いがたい。どうしても砂埃は入り込みます。しかしそこが大理石床の便利なところ掃除は簡単。ベッドもカバーをはがせば何のことはありません。全てはアシタあした。今夜はナイト・キャップでもやっつけて、とにかく早寝が勝ち。



翌朝は朝寝坊。起きてすぐベランダから下を覗き込みました。するとこんな具合。白いパラソルのすぐ右がエントランスです。呂の字模様のタイル床を憶えてますか？一番右のコンクリート打ちっぱなしの庭、これは３月末に私達が出発するはるか以前から工事に掛かっていました。エントランスとの間にはさまれた二つの庭はなんにもしてなかった。それが今では４箇所同時進行中。いや、よく見るとどうやらエントランスは物置兼作業場になっているような様子。小さいコンクリート・ミキサーなんかもここに置いてあるし。あちこちで数人働いている作業員も皆仲間らしい。

どうやら一番右の庭の改装が始まってから、次もまた次の家も同じ業者に改装を依頼したらしい。３軒同時進行となると作業場や道具置き場があったほうがはかどる、じゃ、エントランスをつぶしちまえ、ということになったのかどうか？　住民というかほかの所有者の同意は得られたのか？　私達がそのとき在宅していたとしても、所有者でもない私達の意向を誰かが聞きに来たとは思えませんけどね。

この推測どおりとすれば、すごいですねー。日本じゃ考えられない。３軒の私物の改装のために８０戸の人々に延々と何ヶ月も迷惑を掛け続けですからねー。エントランスがひどく傷んでいてそこも改修が必要だったのならともかく、そんな様子は全くなかったのに。それともビルの管理会社が改修と引き換えに作業場を提供したのか？

それから、すでに一ヶ月以上。工事は遅々として進んでいません。そりゃそーでしょうよ、なにせガウディの国ですからねー。サグラダ・ファミリアとはスケールが違いますが、あちこちの工事現場を見ても「イツ頃」完成予定という表示が私達には分かったタメシがない。店の改装などでも「イツ」開店予定なんて書いてありません。

作業は朝８時開始。１０時になると朝食の時間。ボカディーヨです。どうやらスペインの人たちは、朝、ちゃんと食事をしてから仕事に出かけるわけではないらしい。

学校の回りでも１０時頃になると生徒がぞろぞろ出てきてあたりの店に群がっています。ボカディーヨを作ってもらってパクつくんですね。それが毎朝のことです。

だから、朝はごく簡単にチューロとカフェまたはスモ(ジュース)なんかで済ましちゃうんじゃないか。

欧州のホテルの伝統的なコンチネンタル・スタイルの朝食ってそんな感じですよね。前に私達がガリシアへ行ったときもそうだった。最近では大抵のホテルの朝食はバイキングに変わりつつあるようですが、Ｒが現役の頃、外地乗船の為に泊まった安ホテルなどは大抵クロワッサン一個にコーヒーで参ったものです。

１０時になると、下でもご多分に漏れずこの通り。みんなそれぞれ自分のオベント箱からパンと材料を取り出して、銘々自分の好みでいろんな味のボカディーヨを作るん

です。普段、仕事をしていてもおしゃべりの絶えない人たちですが、このときばかりはほとんど話もせず黙々と自分の作業に没頭している様子。双眼鏡で覗くのはちょっと憚りますから良くはわかりませんが、あまり野菜っぽい色は見えません。

パテみたいな物を塗ってる人もいましたがほとんどはハモンやケソ(チーズ)などをはさむだけのようです。そんな簡単なものならいっそウチで作ってくればよさそうなものをと思いますが、現場で作る、ことに意義ありなんでしょうか。

私達が買って食べた機会はごくわずかなのでよく知りませんが、店で売っているボカディーヨもハモン・イ・ケソ(ハム・チーズ)とかウエボ・イ・アンチョア(卵とアンチョビ)とかバコン(ベーコン)とかツナとか単純な組み合わせが多いみたいです。

それらにオニオン・スライスやレタスやトマトなどを一緒にということはあまり好まれないのか、ボカディーヨのガラス・ケースを覗いてもパンの間に野菜が覗いていることはあまりありません。

そして、セルベサの瓶を持っている人が多い。缶が少ないのは、冷えた瓶を持って出れば、朝のうち２時間位ならそんなにぬるくならず呑めるからか？

ここだけでなく、どこの作業現場で見てもよくビール瓶を持っています。それがアルコール抜きのセルベサなのかどうか、アルコール入りのビールをこの時間に呑んでいたら日本じゃクビですね。

こうして、ボカディーヨとセルベサの朝食を終えると、やっと口は本来の目的、おしゃべりに戻ります。魔法瓶のカフェを飲みながらしばし食後の団欒。

これじゃ、仕事がはかどるわけはありませんね。

私達も早速アンドレスから二種類の鍵を貰いました。工事中、０８時から２０時迄は特別に開けてあるガレージの通用門も夜の間は閉まります。夜といっても夏至を過ぎたばかりの今、日没は２１時４５分。２２時過ぎまで明るいのです。朝、家の中が明るくなるのは７時半。さて、いつ迄ガレージの門経由で出入りする日が続くんでしょうか。アンドレスに聞いてもどうせ困った顔をするだけでしょうから、聞きません。仮に彼が「イツイツまで」と即答するとしてもその通り終わるとは思えません。だから、ヤッパリ聞きません。＊＊＊

「マドリー(ド)の休日・その二」の巻

マドリー(ド)・二日目

初日は乗り合い市内観光のハシゴで忙しくあちこちを移動した私達ですが、おかげで広いマドリー(ド)の大まかな地理はつかめたように思います。

もっとも、相棒の頭の中はどうなのか一向に確信はもてません。何しろ物の方位を右・左だけで言う人ですからね。南を向いて右といえば西だし、北を向いて右といえば東ですよね、それは分かっていても頭の中の座標が東西南北の方位を受け入ない人が結構いるみたいです。Ｎと一緒に歩いていると、全く反対へ移動していると思っているらしいことに時々気がつきます。

ともかく乗り合い観光は正解でした。聞きにくいヘッドフォンでしたが、日本語の説明もあったしね。個人で旅行する方にはお勧めです。３路線全部、どこで乗っても、どこで降りても、何度乗り降りするも自由。１日券１３ユーロ。２日間通用だと１７ユーロです。６５歳以上はシニアー割引もあります。Madrid Vision お忘れなく。これだけ宣伝したんだから次は只にしてもらわなくちゃ。

さて、今日は優雅に美術館めぐりです。朝、チェックアウトしてすぐ、アトーチャ駅に向かいました。今日の午後カァディス行きに乗り込むまで駅の一時預けに荷物を置く為に行ったのです。ホテルで預かってもらえばロハですが、電車の時間が迫ってからホテルに行って、荷物を持って移動するのは骨が折れます。電車の発駅まで持ってっとけばひとまず安心、時間一杯まで遊んでられるという計算。

アトーチャ駅は例のテロ事件で一躍有名になりましたが、構内に、しかも屋内に植物園があるというちょっと変わった造りです。

特急ＡＶＥや、急行 Altaria や Targo などの発着する駅、近郊線やレヒオナルの発着駅、地下鉄駅などが集まっていて、東京駅ほどではないにしても全体ではかなりの面積です。この駅は大雑把に言うとスペインの南半分向けの路線の基点、北へ向かう

路線は市の北のほうにあるチャマルテン駅からのようです。丁度以前の上野駅と東京駅という対比でしょう。
新幹線が色々とできてから、全てが東京駅中心になって上野駅の影が薄くなりましたね。アトーチャとチャマルティンではどうでしょうか。違いがあるとしたら、それはそのまま北へ帰る人達と南へ向かう人の違いでもあるのか。私達はほんの一部分しか知りませんが、前に行ったガリシアでは、アンダルシアの雰囲気とはハッキリ違うものを感じました。♪上野発の夜行列車降りたときからー♪　というアレです。

一時預けはその植物園のかげにありました。この一時預けというものも日本とは大分様子が違います。まず、絶対数が少ない。広いアトーチャ駅構内でも私達が探し当てたのはここだけ。そして多分ほかにはないのだと思います。日本ならコインロッカーはどこにでもあって、サイズも大中小そろってますね。
これまでのスペインでの私達の行動範囲ではホントに数が少ない。しかも、やっと見つけたとしても鍵が壊れていたり、肝心のメダル販売機がなかったり壊れていたり。そう、大抵のロッカーは小銭(コイン)を直接入れるのではなく、小さいメダルを自販機で買って、それをロッカーのスロットに入れるのです。なぜそうする必要があるのか？　大いなる疑問です。スーパーのロッカーは直接小銭を使うのに・・・。
このアトーチャ駅の一時預けは入り口に数名のガードマンがいて、セキュリティー・チェックをやっていました。預ける荷物の中身をＸ線検査するのです。同じことを長距離鉄道駅でもやっていますが、あまり意味の有る事ではないように思えます。
なぜなら近郊線やレヒオナルではやってないし、鉄道利用客すべての検査はとてもできませんね。一部では検査をやっていても、アトーチャ駅全体としては特に警備が厳しいという感じはありませんでした。所詮、テロを警備力で押さえ込もうとしても無理な話ですね。重要なことはテロリストを生む環境を作らない事の筈ですが、今の世の中はその根本のところが狂っているとしか思えません。強者が弱者を武力で押さえ込む事が正義とされるようでは、テロもなくならないのではないでしょうか。
ところで、ここではコイン(小銭)を直接放りこんだ、気がする。頼りない話ですが、そのとき、小銭を数えてモタついていた私達に、ガードマンの一人が色々世話を焼い

てくれて全部自分でやってくれちゃったので、その部分の記憶が欠落しています。

何事も、アナタ任せではだめですねー。

美術館めぐり第一弾はここ Centro de Arte Reina Sofía ソフィア王妃芸術センターです。ちょっと殺風景ですね。大きなガラス・ケースみたいなのはエレベーター。

ここは何といっても「ゲルニカ」。あのピカソのゲルニカで有名な所ですが、美術には疎いＲでも名前ぐらいは耳に残っているダリやミロといった現代美術の巨匠の作品が目白押しです。その「ゲルニカ」は、オーキイ。作品の内容については何も言うつもりはないですが、とにかくそのサイズが大きい。こんなに大きい絵を描く精力というのはやはりただ事ではないですね。

この絵の隣の部屋には下絵から完成までにいたる変化を展示してありましたが、初めに描き込まれていたものが後から塗りつぶされたり、初めはなかったものが後で描き加えられたりする様子が面白いと思いました。

この絵の前ではかなりの時間いたのですが、どうやらこの絵だけを見るためにまっす

ぐここへ来て、そのまますぐ帰ってしまう人がかなりいるようです。もったいないといえばもったいないですが、それだけこの絵が飛びぬけているということでしょう。

ここで私達は欲張りにも三つの美術館共通券というのを買いました。ここレイナ・ソフィア芸術センターと、プラド美術館とそのすぐ近くのティッセン・ボルネミッサ美術館です。できれば駆け足で全部を回りたいと思ったのですが、それはとんでもない考え違いでした。例えばプラド美術館などは、絵の好きな人だったら丸一年通い詰めても飽きないだろうし、私達のようにワカッチャいないものでも一日では忙しすぎると思いました。

上の写真のように左二枚の半券は切れていますが、右端のティッセンのは残してしまいました。しかし、考えてみればこれは当たり前で、この切符を発行するほうも一日で全部見て欲しいと思っているわけではないんですね。なぜなら切符の白い部分の上辺に各国語で書いてある通り、この切符２００６年１２月３１日まで有効なんです。私達が買ったのは２００５年５月２５日。それは真ん中のプラドの入館スタンプのとおりですが、これはあくまで私達の入館日です。切符の発行日はどこにも書いてありませんから、多分２００５年１月２日（１月１日は休館）に買っても同じなんじゃないでしょうか。多分最大２年間有効なんですね。なんと息の長い話です。

できれば、各館とも丸一日かけてゆっくり見て歩くことが良いと思いました。繰り返しますがプラド美術館はそれでも忙しすぎます。それぞれの絵については「の一・こ

めんと」としておきます。もちろん「着衣の」と「裸の」も見ましたヨ。

これは、プラド美術館のいわば南口、ムリーヨ門といわれるところ。入場者の列が館外まで伸びていますが、この時期はまだマシなのだと思います。いつ頃が一番込むのか知りませんが、到底こんなもんではすまないんでしょうね。

私達はこの反対側、北側にあるゴヤ門から入りました。もう一つ、正面玄関とも言うべきベラスケス門というのが西側プラド通りに面した中央にありますが、そこは閉まっていました。この美術館の作品について何かを語るのはやはり遠慮しておきます。

一つ意外だったのは、この美術館はフラッシュさえ使わなければ写真撮影も自由らしいということ。そして館内のあちこちで作品の模写をしている人達もいました。胸には許可証らしいカードをぶら下げてましたから、そういう許可が出るんでしょうね。どういう人がやっているのか？　どの人の絵も素晴らしい出来で、素人目にはとても真贋の区別がつきそうもありません。衆人環視の中でやることですから余程の自信がないとできるものではありませんね。

私達は写真撮影ＯＫということを知らなかったのでカメラを持っていたのに一枚も撮っていません。マラガのピカソ美術館などはカメラを持って入ることすら禁じられたのに、大きな違いです。もっとも、いくら写真を撮ってきても、所詮食堂の料理見本と同じ、何の味も匂いもしないわけで、自分がその絵の前にたった時の感動の記憶の助けにしかなりませんね。しかも、いい写真を撮ろうとすると大勢の観衆は邪魔だしいいシャッター・チャンスはなかなかこず、いらいらとそれを待つために作品と直面して得られる感動は薄れてしまうんではないか？　写真を撮ってもいいことを知らなくて良かった。

というわけで、今回もご期待に沿えず申し訳ありませんがあまりいい写真がありません。でも、また言い訳ではありませんが、私達が二人きりで無防備に歩き回っても危険な目にあわずにすんだのは、ほとんどカメラを構えるということがなかったため、日本人観光客だとは見えなかったせいではないか？　イヤイヤやっぱり風体がどう見ても懐中豊かには見えなかったか？　この二日間私達が気軽にマドリー(ド)の街を歩き回ったことで、ナーんだ、たいしたことないんだナ、とは考えないでくださいね。

帰ってきて、久し振りにＰＣをあけたら大使館領事部から４月・５月の邦人被害状況の情報メールが入っていました。それによると相変わらずマドリー(ド)での被害は多く、４月が１０件、５月が９件報告されていました。これらはいずれもパスポートや航空券を盗られたものばかりですから、実際にはこれよりかなり多くの被害があったであろうことは想像に難くありません。パスポートを取られたら否応なく警察や領事館へ駆け込むことになりますが、金品の被害だけの場合、届けても仕方がないと泣き寝入りの人も多いでしょう。そういう事件も数多いのではないかと思います。

これらの被害状況を良く見るとその九割以上が観光客です。ごくまれに在留邦人もやられていますが、それはスリや置き引きなど本人の不注意にもよるもので、観光客の場合はいきなりクビを絞められたり、殴られたり、突き飛ばされてひるんだところをやられるといったケースが多いようです。日本人観光客はモッテル、とはじめから狙われているんですね。では、私達はやっぱりモッテナイと見通されたか、あるいは、ハポネスとは思われなかったか。ではまた来週。＊＊＊